2025年度おきぎんふるさと振興基金 事業

「沖縄映画を誰もが楽しめる上映会」事業報告書

■ 映画のミカタプロジェクトテーマ

沖縄で制作された音声ガイド・日本語字幕付き映画作品で、ご家族、ご友人など、誰でも　一緒に、同じ空間で、同じタイミングで、泣いたり、笑ったり、感動したりの楽しいひと時を・・





■ 音声ガイドとは・・・

目の見えない、見えにくい方も映画を楽しめるように、映像の情報を音声で補うサービスです。





報告者：株式会社918　映画のミカタプロジェクト

Eiganomikata project

本事業の趣旨について

テーマ：沖縄映画を誰もが楽しめる上映会の開催（沖縄県内隅々の地域に届けたい）

※テーマ及び以下記述の「沖縄映画」とは、沖縄が舞台、沖縄で制作された映画をいいます。

弊社は「誰でも一緒に、同じ空間で、笑い、泣き、感動し、楽しめる映画の上映会」をテーマに令和3年から現在まで、映画のミカタ上映会（ゆんたく映画祭）」と銘打ち、沖縄を舞台にした映画作品の上映会をプロデュース及び主催開催（映画のミカタプロジェクト）をしています。

また「誰でも一緒に」という観点から、映画作品に音声ガイドや日本語字幕を付け、特別編集を行い、視覚に障碍がある方、聴覚に障碍がある方も映画を楽しんで頂けるようにしました。

令和3年から令和5年にかけて、沖縄県文化振興会のご支援を頂いたことで、現時点で沖縄映画に音声ガイドと日本語字幕を特別編集した映画が11本完成し、その作品を上映することが可能です。

近年、県外から「映画のミカタプロジェクト」を視察に来県される団体様及び問い合わせなどが寄せられており、プロジェクトが、ようやく認知されてきたように感じます。

令和5年12月開催の「第56回沖縄県身体障害者福祉大会」にお招きいただき「音声ガイド・日本語字幕を付けた沖縄映画」の上映と講演をさせていただいたことから、県内の福祉協議会はじめ福祉団体から「我が町で上映会開催してほしい」という声を多くいただくようになりました。

そのことから、本活動は「県内隅々まで届けたい」という新たなテーマを掲げ、活動範囲を全地域へ広げていくこととしました。

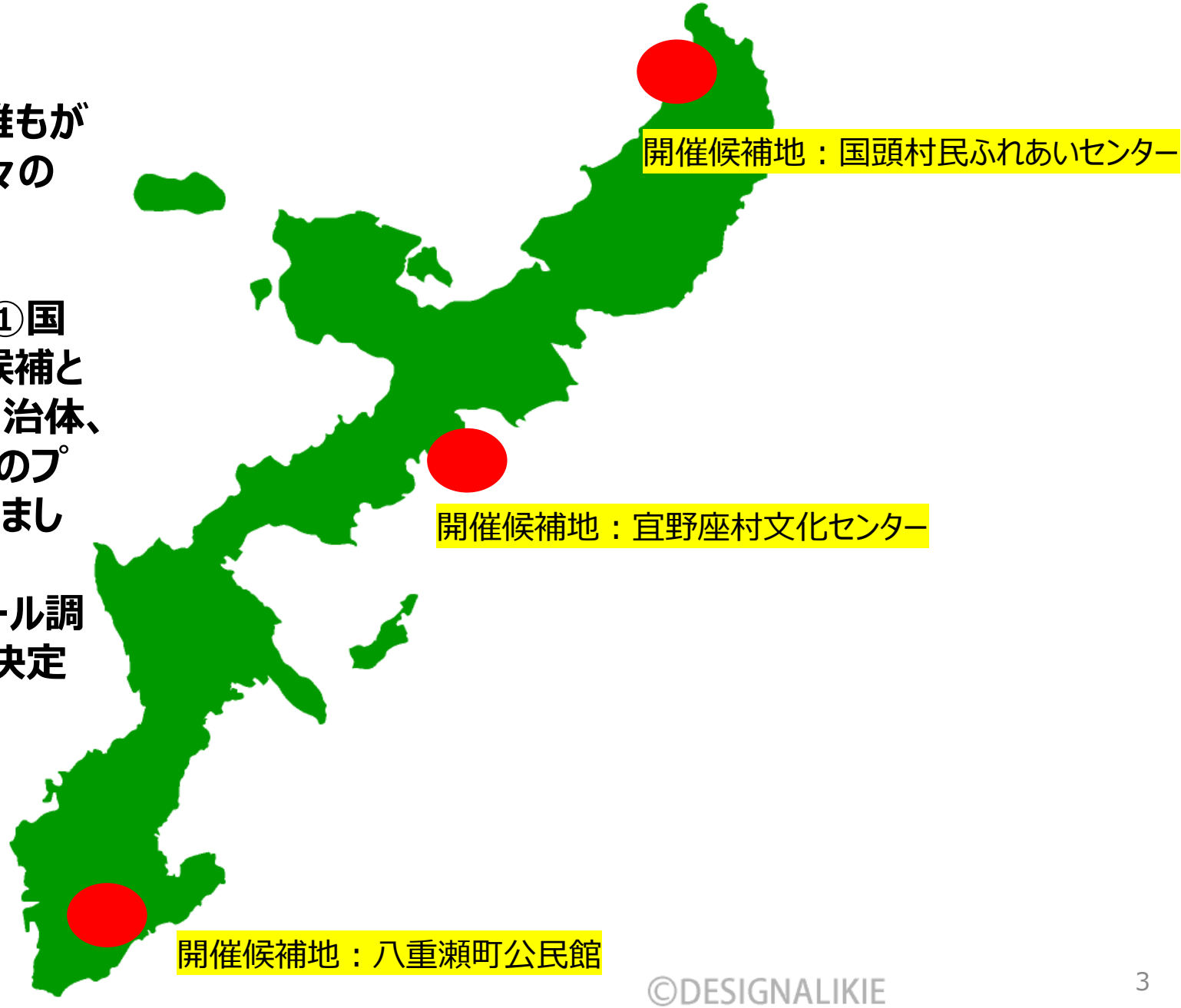
本活動は障碍の有る無しに関わらず全ての人が、上映会をとおして、同じ空間で、同じタイミングで、笑ったり、泣いたり、感動したりを共有することで「地域で共存する」ことを再確認できます。

※本事業では「沖縄映画の上映会」に加え「上映映画の関係者と鑑賞者のゆんたくタイム（おしゃべり）」をセットで開催しており、沖縄映画をより深く楽しめるプログラムです。

上映会開催地について

本基金応募のテーマは、「沖縄映画を誰もが楽しめる上映会の開催（沖縄県内隅々の地域に届けたい）です。

そのテーマのもと、計画では開催地を、①国頭村、②宜野座村、③八重瀬町の３候補とし、本基金の採択後、各関係機関（自治体、各地域の社会福祉協議会等）へ企画のプレゼンテーション及び意見交換等を重ねました。
その結果、地域の協力体制やスケジュール調整などを鑑み、②宜野座村での開催に決定しました。



©DESIGNALIKIE

■チラシ及びゲスト出演者



■障碍者のお申込み及び来場受付体制について



MC:山城 智二（お笑い芸人）

司会：末吉 甘奈（フリーアナウサー）

ゆんたくタイムゲスト出演者：
川田 広樹（お笑い芸人/ガレッジセール）

末吉 甘奈（短編作品ナレーション/フリーアナウサー）

会場受付の様子（写真は、視覚障碍者の来場者を座席まで誘導の場面です）



障碍がある方が、安心して来場できるようなご案内にしました。
開催当日の受付では、地域ボランティアの皆様にご協力を頂き、お席までの誘導を行いました。

上映会会場について







会場：宜野座村文化センター　がらまんホール　　所在地：沖縄県宜野座村宜野座314-1

上映会について



手話で挨拶をする主催者

上映作品（短編1作品/長編１作品）



演じる女

2020年／19分
監督：照屋 年之
13:40～14:00

病で余命いくばくもない年老いたアキラには、若くて美しい妻・好子がいる。病で歩くこともできないアキラを連れ出す好子。彼女の思惑とは?

ナレーション：末吉 甘奈



かなさんどー

2024年／86分
監督：照屋 年之
14:05～15:35

母の死、父との確執。父と娘の止まっていた時間が、母の遺した日記をきっかけに動き出す。記されていたのは父と母だけが知る“愛おしい秘密”だった。

ナレーション：水口 真名

©「かなさんどー」製作委員会





ご家族づれ、子供達、ご年配のかた、視覚、聴覚、身体が不自由なかたなど、沢山のかたに鑑賞して頂きました。

ゆんたくタイムについて



鑑賞者からとゲストへの質問タイム（写真は聴覚障碍者。手話での会話を手話通訳士を介してのやり取りは、健常者の皆様へ本事業の趣旨を十分にご理解いただけたとものと思います。）



鑑賞者からゲストへの質問タイム（写真は視覚障碍者。自ら手を挙げて発言して頂きました。）



どの出演者が話しているこかが、解るように、地元高校生による矢印ボードでサポート



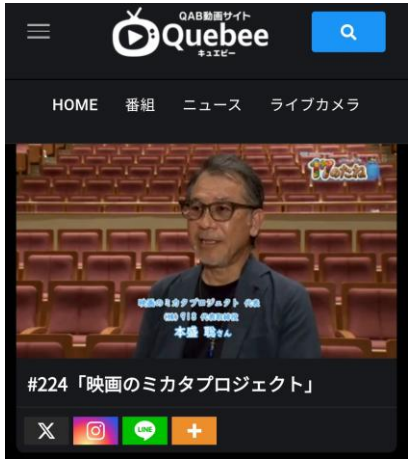
取材を受ける鑑賞者



手話通訳士の皆さん（ゆんたくタイム）

■本基金に採択頂いたおかげで、本プロジェクトの取り組みを番組で放送して頂きました。







取材を受ける鑑賞者

QAB琉球朝日放送番組「17のたね」で取り上げていただきました。
下記のワード検索でアーカイブが視聴できます

#224「映画のミカタプロジェクト」－Quebee キュエビー

■新聞メディアにて告知及び寄稿記事について



寄稿

障がい者も一緒に楽しむ

大嶺可代

「誰でも一緒に、同じ空間、同じタイミングで笑い、泣き、感動する」をテーマに掲げた催し「映画のミカタproject」が昨年5月で5回目を迎えた。主催する「株式会社918」の本盛聡代表は「視覚や聴覚に障害のある方が気兼ねなく楽しめる場をつくりたい。同時に、健常者の方にも、時には目を閉じたり耳をふさいでみたりして『新しい映画の楽しみ方』を体験してほしい」と話す。

宜野座村の行政や各団、地元企業、社会福祉協議会など、地域を挙げた支援を受け、12月14日に同村で初開催にこぎ着けた。会場となった、がらまんホールには、村民をはじめ、視覚・聴覚に障害のある方、難病の患者が集まった。

映画のミカタproject

字幕や音声ガイド 笑って泣いて

上映作品は、ガレッジセールのゴリこと照屋年之監督による、家族の愛をテーマにした感動作「かなさんどー」と「かなさんどー2作目。スクリーンに聴覚障害者に対応するバリアフリー字幕が表示され、視覚障害者向けの音声ガイドが場内スピーカーから流された。観客は美しいシリアスさが巧みに織り込まれた展開に共に泣き笑いし、まさに「命薬（ヌチグスイ）」のようなひとときを過ごした。

映画の内容・情報にアクセスできる状態（アクセシビリティ）とその確保（情報保障）のためには、字幕を表示する端末や、音声ガイドのイヤホンが用意されることもあるが、本盛代表によると、当事者が使用をためらうこともあるという。イヤホンからの音量れや端末の光漏れが周囲の迷惑になるのではとの心配からだ。

映画への音声ガイド付与については「作品の雰囲気を損なうのでは」という懸念の声もあるが、実際にガイドを手がけた末吉甘奈氏は「細かい描写を言葉で伝えることで理解が深まり、映画がより立体的に感じられる」と語る。筆者もその効果を強く実感した。

特に「かなさんどー」でヒロインが化粧をする場面では、アイシャドーや口紅を肌にのせる際の心情が浮かび上がるような言葉選びがなされており、観客の想像力を鮮やかに広げていた。

また、バリアフリー字幕も非常に明快だった。ラジオパーソナリティー役の前川守賢（元ちゃん）さんのセリフに付された話し手の名前が「ニヒ」となって

■14日に音声ガイドと日本語字幕付きの映画上映会　【宜野座】

障がいの有無に関わらず映画作品を楽しんでもらいたいと、音声ガイドと日本語字幕付きの映画上映会が14日午後1時半から、宜野座村文化センターがらまんホールで開催される。沖縄を舞台に制作された「演じる女」と「かなさんどー」を上映。入場料は千円。

株式会社918主催、宜野座村社会福祉協議会共催の「映画のミカタ沖縄映画上映会」で、上映後は

（左から）株式会社918の本盛聡代表取締役、宜野座村社会福祉協議会の宮城清人さん（提供）



ガレッジセールの川田広樹さん、演芸集団ＦＥＣの山城智二さん、フリーアナウンサーの末吉甘奈さんが登壇し、来場者と語り合う「ゆんたくタイム」も設けられる。

午後1時40分から「演じる女」（19分）、同2時5分から「かなさんどー」（86分）を上映。「演じる女」のみの視聴は無料だ。諸経費を除く収益は村社協へ寄付され、地域福祉の推進に活用される。

チケット購入や問い合わせは宜野座村社協、電話098（923）0118（担当・宮城）。またはＱＲコードから。

（池辺賢児通信員）



沖縄タイムス　会員登録　電子版
ニュース　ウェブ限定　電子新聞・書籍・チラシ　社説
トップ＞沖縄タイムス紙面掲載記事＞障がい者理解し　映

「映画のミカタ」への来場を呼びかける株式会社９１８の本盛聡代表（右）とフリーアナウンサーの末吉甘奈さん＝９日、那覇市・沖縄タイムス社

障がい者理解し　映画の感動共有　１４日　がらまんホール



琉球新報
2026年(令和8年)　1月20日(火)　17.市町村

視覚・聴覚障がい者も映画満喫　宜野座

音声案内、字幕付き上映会
感動、同じタイミングで

ご支援・ご協力を頂いた団体、企業等の皆様



・おきぎんふるさと振興基金
・社会福祉法人 宜野座村社会福祉協議会
・宜野座村地域支援センターアイリス
・宜野座村
・宜野座村６区会
・宜野座村民生委員児童委員協議会
・沖縄県立宜野座高校
・宜野座村建設業者会
・宜野座村議会
・一般社団法人宜野座村観光協会
・ひるぎの会
・バリアフリー映画鑑賞推進団体シテイライツ/シネマ・チュプキ・タバタ
・宜野座村教育委員会
・大城 桜子（聾者 女優）
・株式会社GLAB
・有限会社宜野座ビル管理
・社会福祉法人明世会
・沖縄県視覚障害者福祉協会
・沖縄県身体障害者福祉協会
・沖縄県網膜色素変性症協会（JRPS沖縄）
・沖縄県立芸術文化芸術研究所

上映会の来場者数について











鑑賞者数157人

最後に・・・

このたびは「おきぎんふるさと振興基金」を活用させていただき大変ありがとうございました。

開催した「映画上映会」は、“誰でも一緒に”は勿論ですが「地域の有志、団体、首長、議会議員」などにも参画して頂き、「地域のコミュニティづくりを一緒に考えていく場、本事業を理解して頂く場にしたい」「文化＋福祉のモデル事業にしたい」という、もう一つのテーマがあります。

今回の上映会では、9ページ記載の「ご支援、ご協力を頂いた団体、企業等の皆様」の通り、予想を上回る方々のご支援及びご協力を頂けたことは、「地域のコミュニティづくりを一緒に考えていく場、本事業を理解して頂く場にしたい」「文化＋福祉のモデル事業にしたい」という我々の事業目的が達成できたものと思っています。
「地域コミュニティ」分野では、本上映会がキッカケで、宜野座村所在の福祉団体と、お隣である名護市所在の福祉団体との交流が始まりました。このことは「地域のコミュニティづくり」に一役貢献できたのではないかと自信を深めました。
本事業が開催できたことで、また一つ、経験を蓄積することができました。
今後も、「沖縄映画を誰もが楽しめる上映会の開催（沖縄県内隅々の地域に届けたい）」プロジェクト理念のもと「文化＋福祉のモデル」として地域貢献ができるよう活動していく所存です。
おきぎんふるさと振興基金さまには、本当にお世話になりました。